

目 次

はしがき

序 章 戦後国際秩序の刷新と日米欧関係	黒田友哉 森 靖夫… 1 倉科一希
1970年代とはいかなる時代か 「長い1970年代」と日米欧関係への注目 先行研究の紹介と整理 本書の位置づけ	

第 I 部 三極体制の起源と展開

第 1 章 日米欧三極委員会参加の日本的意義	森 靖夫…21
——大来佐武郎を手がかりに	
1 敗戦から占領まで 21	
原点としての総力戦 日本の工業化とアジアの相互的繁栄 アジア冷戦と 「世界」との邂逅	
2 高度成長とアジア経済援助 24	
アジアの開発援助と日本 経済計画, 高度成長, そしてアジアの開発援助 グローバルな視点の登場	
3 グローバル・サウスへの関心 28	
UNCTAD の衝撃 グローバル・サウス, 開かれた地域主義, そして日本の利益	
4 日米欧三極委員会へ 31	
三地域間研究の開催 三極委員会の成立 三極委員会のホスト国として 三極委員会に込めた大来のねらい	
第 2 章 日米欧三極委員会とアメリカ国内政治	倉科一希…43
——ブレジンスキーと「欧州主義者」	
1 対外政策をめぐる論争における三極委員会 43	
2 ブレジンスキーと三極委員会 45	

三極委員会の構想 プレジンスキーの国務省入省 政策企画評議会における
プレジンスキー

3 国務省政策企画評議会の人脈と三極委員会 52

三極委員会とボウイ、スミス、オーウェン 三極委員会における米欧協調路線
欧州主義者の見る日本

4 三極委員会構想の限界 58

第3章 草創期サミット再考……………黒田友哉…67

—日本の「招待」とECの参加を中心に

1 研究史の整理 67

2 サミット創設の背景 69

1970年代の国際環境 第1次石油危機の影響 欧州理事会と先進国首脳会議
の創設

3 日本の参加問題 72

サミット開催とジスカールデスタンの意図 日本参加をめぐるシュミットのイ
ニシアティブ 日本への期待と日本の脅威

4 ECの参加問題 75

代表は誰か—欧州委員長か欧州理事会議長か、両方か 「小国」連合の圧力
とシュミットの役割 帰結—欧州委員長の定例参加と欧州理事会の「アド
ホック」な参加 日欧関係強化への影響

第4章 『成長の限界』……………ジュリアーノ・ガラヴィーニ…87
(高坂博史訳)

—1972年ローマ・クラブ報告書の論争的性格

1 ローマ・クラブと『成長の限界』ができるまで 89

2 『成長の限界』報告書と「均衡状態の世界」 92

3 『成長の限界』報告書に対する賛否両論の受容 95

結論 成長の限界とは誰のものか? 99

第5章 アパルトヘイトと日米欧関係……………小川浩之…107

—南アフリカへの制裁をめぐる三極間の協調とその限界

1 南アフリカへの武器禁輸問題 107

- シャープヴィル事件と冷戦 南アフリカへの武器輸出問題と戦略的重要性
- 2 アパルトヘイトと1970年代 112
ソウェト蜂起とビコの殺害 カーター政権の発足と安保理決議第418号
- 3 南アフリカへの経済制裁問題 118
反アパルトヘイト運動の展開 経済制裁と不買運動をめぐる賛否 アパルトヘイト終結への道

第Ⅱ部 政治経済問題の展開

- 第6章 日米欧が主導した東京ラウンド? ……能勢和宏…133
——欧州委員会の対日認識の変化を手がかりに、1973～1979年
- 1 これまでの研究と本章の位置づけ 133
- 2 東京ラウンド開催の決定（1971～72年） 134
東京ラウンドをめぐる議論の始まり 東京ラウンドに臨む EC
- 3 「日米欧三極秩序」を核とする東京ラウンドの開幕（1972～74年） 137
東京ラウンドに向けた準備の難航 東京ラウンドの始まり 農産物交渉をめぐる米 EC の対立と日 EC の接近
- 4 貿易交渉の開始と「日米欧三極秩序」のほころび（1975～76年） 142
米国通商法の遅れと石油危機 米国通商法と EC 交渉指令の成立 日 EC 貿易不均衡の進展とセーフガードをめぐる日 EC の対立 交渉の行き詰まり
- 5 東京ラウンドの終結へ（1977～79年） 148
米 EC での政権交代とロンドン・サミット ロンドン・サミット後の米 EC の急接近 日 EC 協調関係の瓦解 セーフガードをめぐる日米 EC 関係と「了解の枠組み」の成立 東京ラウンドの成果と限界
- 第7章 秩序管理主体としての「日米欧」の形成 ……鈴木宏尚…162
——日本の通貨外交と G5 の誕生、1971～1973年
- 1 国際通貨体制の再建と秩序管理主体としての「日米欧」の形成 162
日米欧三極による秩序? 日本と米欧 国際通貨体制の再建と秩序管理主体としての「日米欧」の形成

- 2 ニクソン・ショックと国際通貨体制の動揺 164
戦後国際通貨体制の動揺 ニクソン・ショック 日本の対応
- 3 G10 と固定相場制再建の試み 168
G10 における平価の多角的調整 スミソニアン合意の成立
- 4 通貨危機の再燃とフロート制への移行 172
IMF-C20 の発足 通貨危機の再燃 米欧対日本の構図とフロート制への移行
- 5 日本の通貨外交と G5 の誕生 177
IMF-C20 と日本の通貨外交の活発化 愛知のイニシアティブと G5 の誕生
「愛知通貨外交」成功の背景

第 8 章 経済危機に直面するトライアド（日米西欧）

——新自由主義と新重商主義の間でのグローバル化の組織化，1973～1986年
 ローラン・ヴァルロゼ.....188
 (窪内尊之訳)

- 序 論 188
- 1 西側世界の危機 189
大規模な経済危機 危機に対する各国の政策過程
- 2 西欧の組織化と三極への統合 197
中心的な立場にあった欧州経済共同体 新重商主義者の緊張緩和
- 3 多国間協力の模索 204
GATT 枠組みのもとでの貿易自由化の模索 G7 を通じたトライアドの制度化
- 結 論 208

コラム 日米欧パートナーシップの将来——日欧政治協力の視点から…飯村 豊…216
 1960年代～70年代——経済摩擦一色の日欧関係 1970年代～80年代——米日
 接近と日本の先進国サミット入り 1990年代～21世紀初め——冷戦の終結と
 日欧政治協力の停滞 2000年代～20年初頭——米国の国力低下と、ロシアと
 中国の覇権主義の顕在化 2022年2月～現在——強固な日米欧パートナ
 シップは生まれるか

 第三部 外交・安全保障の展開

- 第9章 最悪の10年? トーマス・A・シュウォーツ……225
 (石本凌也訳)
 ——ヘンリー・キッシンジャー、三極協力と日米関係
- 1 キッシンジャーを理解する——来歴とニクソン政権における役割 226
 - 2 最初の行動——沖縄と繊維問題 229
 - 3 2つの「ニクソン・ショック」——米中和解とブレトンウッズ体制の終焉 232
 - 4 三極という選択肢 239
 - 5 「欧州の年」と日本 241
 - 6 中東危機と日本 243
 - 7 キッシンジャー、フォードと日本 246
- 第10章 アメリカの陰で ビエール・ジュルヌー……253
 (粕谷真司訳)
 ——日仏接近と新たな協力についての素描, 1968~1973年
- 1 はじめに 253
 - 2 原子力協力——アジア太平洋における地政学的大変動の観点から 254
 - 3 インドシナ問題——東南アジア再編の中心で 257
 - 4 おわりに 260
- 第11章 冷戦とエネルギー問題の相克 青野 利彦……267
 尾身悠一郎
 ——対ソ・エネルギー協力をめぐる米・西独・日の政策的相違
- 1 デタントと対ソ・エネルギー協力の模索 267
 東西間の経済関係とソ連エネルギー エネルギーをめぐる情勢変化
 - 2 1960年代後半以降の西独・日本・米国の対ソ・エネルギー政策 270
 西独による東方政策と対ソ・エネルギー協力 日本——西シベリア資源開発と
 北方領土問題 アメリカ——デタント政策とガスパイプライン計画
 - 3 ソ連のアフガニスタン侵攻と対ソ・エネルギー協力のゆくえ 277
 カーター政権による対ソ制裁措置の発動 シュミット政権とエネルギー協力の
 継続 大平政権の対ソ制裁措置とその顛末 デタントの盛衰と対ソ・エネ
 ルギー協力のリンケージ

第12章 原子力平和利用と核不拡散体制の相剋……………武田 悠…287
—カナダのウラン禁輸をめぐる三極間関係, 1974~1978年

- 1 インドの核実験とカナダの反発 288
カナダにとっての原子力とインド核実験 日欧の立場の違い
- 2 カナダによるウラン禁輸 290
協定改訂要求から禁輸へ 交渉の本格化と争点の変容 加 EC 交渉の停滞
- 3 日米欧の努力と日加交渉の打開 294
日本の働きかけ カナダの軟化 日本の譲歩 日加交渉の妥結

第13章 西側同盟の再編へ, 1962~1983年……………細谷雄一…305
—「長い1970年代」における日米欧関係の発展

- 1 「長い70年代」 305
- 2 西側同盟にとっての「長い70年代」 307
日欧の「冷たい関係」からの脱却 池田勇人の日米欧「三本柱」論 信頼感の欠けた日英関係
- 3 西側同盟の中の日欧関係 312
ECのグローバルなプレゼンス拡大 G7 サミットの始動
- 4 ウィリアムズバーグ・サミットと日米欧関係 315
サッチャー政権の新しい対日政策 中曽根康弘首相とウィリアムズバーグ・サミット

補 章 日欧貿易摩擦の緩和とルールに基づく国際経済秩序の模索
—日米欧と中国の WTO 加盟, 1970~2001年

……………鈴木 均…323

- 1 日本との貿易摩擦から中国加盟問題へ 323
中国に対する視線の変化 戦後日本と GATT・WTO
- 2 EU 単一市場と GATT ウルグアイ・ラウンドの一体追求 (1970~95年) 325
EC から EU へ 表裏一体で推進する EU 単一市場と WTO 創設
- 3 中国の人権問題と GATT・WTO 加盟申請に対する日米欧の反応 329
日米欧 6 カ国の外務次官・局長級会合 中国加盟問題についてのコンセンサス
- 4 もう一つの「日本モデル」提案——ルールに基づく国際経済秩序の実現と中国

に必要とされる改革 332

『不公正貿易報告書』の刊行と中国 必要とされる改革 改革の進展と日本
による「客観的アプローチ」

あとがき 343

人名索引 345